

ねっとわーく水沢

<第97号> 2024年(令和6年) 5月25日(土曜日)
編集・発行 水沢地区振興会内、水沢地区広報委員会
事務局 水沢公民館内
電話 758-3101 FAX 758-3102
E-mail : n.w.mizusawa@gmail.com

地区内世帯数・人口(4月末日現在)

1,805世帯 4,670人

(男2,294人 女2,376人)

前年同月比

世帯 -15世帯 人口 -110人



水沢小学校改装工事

次回は7月25日に発行します。

- ◆ 学校・保育園だより 25
- 馬場小学校・水沢小学校
- 水沢中学校・あおのもり
- 水沢南部保育園
- ◆ 総代だより 57
- 土市・安養寺・大黒沢
- 細尾・野中・市ノ沢
- 幸町・太田島・中在家
- ◆ 地域取材 89
- 旭日双光章受賞 飯塚茂夫
- 十日町褒賞受賞 宮澤秀行
- 馬場小学校リコーダー部 福崎哲也
- 二十歳のつどい 10
- ◆ 編集後記 10

目次

学校・保育園だより

【153年の歴史と伝統 そして閉校に想う】

馬場小学校 校長 矢野 武志

馬場小学校は、明治四年（一八七一年）「汎愛学校」の名称で開校しました。開校から153年という郡市で最も歴史のある学校です。これまで多くの地域の皆様に支えられ、多くの卒業生を輩出してきた馬場小学校の伝統が、今年度をもって終止符が打たれます。

「やつてみよう やればできる 馬場小最後の1年間」を学校経営方針のスローガンに位置付け、来年度新たな環境のもと、たくましく生活を送ることのできる礎を構築することを基本方針としています。

令和六年度は3名の新入生を迎える、全校児童35名でスタートしました。子どもたち一人一人の個性を生かし、全員が笑顔で学ぶことのできる教育活動に取り組みます。

【校長 自己紹介】

○前任校 三条市立第三中学校
○出身 長岡市
○抱負

新任校長として着任いたしました。馬場小最後の校長として、その責任の重さを感じています。
保護者の皆様、地域の皆様と共に子どもたちの明るい未来に向けた教育活動を推進します。精一杯努めます。よろしくお願いいたします。



<馬場小最後の入学式>



【桜をめぐつて】

水沢小学校 校長 田村 晃夫

水沢小学校校歌の二番に「桜が丘に光はおどる」とあります。正にそのような季節を迎える、校庭は子どもたちの活気ある姿で満ちています。桜は私たちの心の拠り所として、この水沢小学校でも長く愛されてきました。

昨年、校舎改修に伴い桜の樹を伐採いたしました。お別れのライトアップではたくさんの方が訪れ、桜を楽しむお姿がありました。おかげさまで、この夏、工事も終わり、新しい校舎へと移ります。伐採された桜は、新しい校舎の室名札や身長計プレート、壁面モニュメントとして学校生活の一部になります。桜をめぐり、また新たに水沢小学校の歴史が紡がれていきます。新しく桜の苗も植えていきたいと思います。

水沢小学校では、この春、19名の新入生を迎え、全校児童1

53名となりました。教育目標である「明るく」「やさしく」「たくましく」の実現に向け、皆様からの愛を頂戴しながら、子どもたちにふるさとを大切にする心、しっかりととした社会性、力強く生きようとする姿勢を育んでいきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



『仮設校舎2階から桜のじゅうたん』



【子どもを真ん中に、地域と共に】

水沢中学校 校長 佐藤 孝幸

四月九日に新入生二十四名を迎え、令和六年度は全校生徒九十一名でスタートしました。教職員は、私を含め転入職員四名を入れた二十一名になります。

教育目標「豊かな心 やりぬく力」の実現、そして、重点目標「豊かなかかわりを通して学びを深め、自信をもつて行動できる生徒の育成」に向け、教育活動に取り組んでまいります。

今年度も地域の特色を生かした「学校林活動」や「農業体験」、地域の方々を講師とした「職業講話」や「職場体験」など、地域資源を活用した活動を行います。また、「大地の芸術祭」の開催年あたり、地域へ貢献する活動も行つていければと考えています。子どもを真ん中に、地域と共に手を携えていきたいです。入学式では子どもたちに、「進んで人とかかわること」と「挑戦して経験を積むこと」について話をしました。人の接し方や思いやりの心を身に付けるために、友達や上級生、先生方だけではなく、子どもたちが積極的に地域の方々とかかわることで「豊かな心」を育んでほしいです。また、失敗を恐れず挑戦し、様々な経験を積むことで自信をつけ、何事にも「やりぬく力」を身に付けてほしいと願っています。今年度も水沢中学校の教育活動に地域・保護者の皆様の御理解と御協力をいただきながら、教育活動に努めてまいります。どうぞ、よろしくお願ひいたします。





いちご組に仲間入りした 2 人



あおのもり

あおのもり 園長 宮沢 希央



水沢南部保育園

水沢南部保育園 園長 富井 茂



はるのもり

あおのもり

園長 宮沢 希央

あおのもり令和 6 年 4 月、新入園の 11 名を迎える園児 100 名、職員 35 名でスタート。みんな元気です。地域の皆様、今年もにぎやかにごやっかいになります。

園庭を見守る 3 本の古い桜は、土市町内会さんによる毎年の害虫駆除のおかげで今も現役。今年はサツと咲いて、パツと散りました。う明日ありと思うこのあだ桜、今を大切にと教えた偉いお坊さんの言葉のように。それでも、あお組とゆき組は、その短い満開の機会を逃さず、お花見給食を楽しんでいました。「お庭でごはん食べたい」「じやあテープル運ぼう」フットワーク軽く赴くままに行動する子どもたちと担任。子どもはただ大きくなる為の準備期間を過ごしているんじやなくて、今をよりよく生きようとする身体の小さな「人」なんだなって実感した春の風景でした。

四月六日に、令和六年度水沢南部保育園入園式が行われました。来賓には、各集落惣代様をはじめ運営委員の皆様からご出席をいたしました。四名の入園児を温かく迎えることができました。昨年度に続き今年度も四月入園児がいなく、令和五年度途中入園四名の入園式となりました。今年一年間の子どもたちの健やかな成長を願っています。皆様方からも温かく見守つていただけますようお願いいたします。

先日、以前にお孫さんを一時預かりした方から「南部保育園に預けたら、孫が変わった」という嬉しいお話をいただきました。確かに登園当初は、口数の少ないおとなしい女の子でした。ところが一ヶ月もすると明るい活発な子へと変貌を遂げたのです。小規模園ならではの個に応じた細やかな保育の成果だと確信しています。また、少人数ゆえに役割もしつかりと与えられます。当たり前に保育をしたつもりですが、水沢南部保育園らしさが全面に出た証と考えています。

馬場小学校が今年度をもつて百五十三年の歴史に終止符を打ちます。この地域に残る教育施設は保育園だけになり、大変残念でなりません。地元ならではの文化や伝



四月六日に、令和六年度水沢南部保育園入園式が行われました。来賓には、各集落惣代様をはじめ運営委員の皆様からご出席をいたしました。四名の入園児を温かく迎えることができました。昨年度に続き今年度も四月入園児がいなく、令和五年度途中入園四名の入園式となりました。今年一年間の子どもたちの健やかな成長を願っています。皆様方からも温かく見守つていただけますようお願いいたします。

先日、以前にお孫さんを一時預かりした方から「南部保育園に預けたら、孫が変わった」という嬉しいお話をいただきました。確かに登園当初は、口数の少ないおとなしい女の子でした。ところが一ヶ月もすると明るい活発な子へと変貌を遂げたのです。小規模園ならではの個に応じた細やかな保育の成果だと確信しています。また、少人数ゆえに役割もしつかりと与えられます。当たり前に保育をしたつもりですが、水沢南部保育園らしさが全面に出た証と考えています。

「南部保育園らしさ」を大切にした保育を】

水沢南部保育園 園長 富井 茂



統を受け継ぎ、園児一人一人をしっかりと見取り、個の良さを更に伸ばす保育に心がけて参ります。

一年でも長く保育園が維持運営でできますよう地域・保護者の皆様のご理解とご支援をよろしくお願ひいたします。



土市

【新年度に当たつて】

土市町内会長

野崎 克己



コロナ禍が終焉になりつつある現在、地域活動も平常に戻りつつあります。しかしながら、近年多発している災害は我が地域でも、他人事ではありません。

百年前の関東大震災は未曾有の災害として、皆さまもご存じなことと思います。木造建築が多くかつた昔は、火災が多発し、多くの住民が亡くなりました。阪神大震災は早朝発生もあり、八割方死因は圧迫死でした。我が地域は山間部のため、津波は心配ありませんが、やはり、怖いのは地震ではないでしょうか。今後、中越地震規模の大地震が再発すると、倒壊する家も増加することが予想されます。

今なお、震災で悩まされる能登地方は、やり切れない状況だと思います。我々も、テレビその他で配信される情報を活用した活動が求められます。家庭の役割分担・地域の役割分担を共有することが、今後の課題となります。地域活動に携わる一員として、災害対策等地域の

皆様と共有できるように、少しでも情報提供していかればと思っております。災害に強い地域を目指していきましょう。

安養寺

【総代をやることになり思うこと】

藤田 友平



令和六年安養寺総代になりました。

二十代後半で父が亡くなり、早くから集落の行事などに参加していましたが、まさかこの年で総代をやるとは思ってもみませんでした。

安養寺も二十代、三十代の人があまりいなく、これからがとても不安です。自分の子供達の時にはどんなふうになっているのだろうか、若い人達がどれくらいいるのだろうかと思いません。しかし自分が今この年で総代になつたからには、自分なりに出来る事を精一杯やっていこうと思います。分からぬ事も沢山あるので、みなさんの力を借りながら頑張つていこうと思います。

大黒沢

【新年度を向いて】

大黒沢総代 井口 正男



正月早々の地震、昨年の猛暑と毎年のように自然は落ち着いてくれません。

今年は、少しでも穩かであつてもらいたいものです。コロナ禍で集落役員となり、今年は大役を任せられどうしたものかと検討致しました。

ここ数年は“何もしてはいけない”してはダメと役員、地域住民もそれに慣れた現状の中ですが、コロナも五類に移行し少しづつでも集落のつながり、活性を考えた中で春祭り、夏祭り、年賀交歓と例年通り挙行する事と致しました。については、地域住民の協力を得ながら役員一同進めて行きたいと思います。

細尾

【新年度を迎える】

細尾惣代

宮澤 一成



令和6年度の細尾集落惣代を仰せつかりました。水沢地区の皆様、宜しくお願ひ致します。細尾集落では市道新宮野中線の土巻き細尾間の歩道の新設とそれに伴う道路拡幅を長年要望しておりました。この道は重要な生活基盤道路であり、通学用道路でもあります。しかしながら、大型車がすれ違う程の十分な幅員がなく、歩行者がいると普通車でさえすれ違いが困難な状況です。特に冬期間、道路が山斜面に面している為、更に幅員が狭くなり雪庇の発生や雪崩の危険箇所でもあります。

昨年、長年の道路委員の方などの活動が実り歩道整備工事が開始されました。まだ全線完成まで至っておりませんが、利用者の安心、安全へ一步ずつ前進しております。道沿いでは春先にスイセンが顔を出し、散歩コースとしても最高な環境となります。どうぞ、水沢地区の皆さんにも近い将来、整備された歩道にてご散策頂ければ幸いです。

野中

野中集落総代 代理 村山 良夫

昨年、偶然にも、約一〇〇年前の私の高祖父（祖父の祖父）の時代、市ノ沢集落の先人たちが、困難な局面にぶつかりながらも皆で協力をしながら、道路を造ったという史実を知りました。

時は流れ、現代の令和の時代。極端な少子高齢化による人口減少、異常気象や予期せぬ大災害、病。昔では想像もつかなかつた新たな難題にぶつかりながらも、先人たちのように皆で知恵を出し、力を合わせて、五〇年、一〇

【温故知新】 市ノ沢

市ノ沢区長 飯塚 登最巳



現在、野中は二世帯しかも、八十歳代の方が男女一名ずつで、冬期は施設に入居する現状です。私は今別の所に住み二十五年になります。これほど過疎が進むとは思いませんでした。残念な事です。集落から出て今さら大きな事は言えませんが、これから少しづつ役に立ちたいと思っています。

今から思えば、もつと早く将来を見据えることが出来ていたら良かったと反省しています。少子化により、跡取りが望めなく、希望が持ちづらい社会になりつつある地元でも、これから補助整備事業により、先祖の土地の有効利用が始まります。新しい野中集落が出来る未来があります。自分も参加して、土地を大切に守ることが手助けでき、幸せです。



○年先の未来にバトンをつなげていかなくてはなりません。この度、区長という重責を担うことになりましたが、集落はもちろん、水沢地区にも微力ながらも、お力添えできればと思つております。精一杯、頑張りますので、よろしくお願ひ致します。

幸町

【新年度になつて】

幸町総代 柳 友和

今年度より、幸町の総代をつとめる事となりました。柳 友和です。幸町に引っ越してきて、早や5年が経過いたしました。こんなに早く総代をやる事になるなんて思つていなかつたので、驚きと自分につとまるかと言う不安でいっぱいです。ですが、任せられたからには精一杯やり遂げたいと思つております。私は現在、妻と小学3年生の息子と年長の娘の4人で毎日、騒がしく過ごしています。子供達のために地域で何か出来たら良いなあと思つております。新年度を迎える、何かとお忙しいことと存じますが、精一杯つとめてまいりますので今後共々支援ご厚情を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

太田島

太田島惣代 高野 正夫

初めまして、令和6年度太田島惣代の高野と申します。私達太田島集落は、他集落と同じ様に少子高齢化と戸数減少が大きな課題になっています。最初から暗い話題になつてしまいま

した。

そんな中昨年は、数年ぶりに例年どおりの秋祭りを執り行うことが出来ました。多くの集落の方々やお客様に来ていただき大いに盛り上りました。また秋に行う収穫祭も数年ぶりに通常のやり方で行うことが出来て老若男女の大勢に参加していただき、おいしい餅や赤飯、豚汁をお腹いっぱい食べていただき喜んでもらいました。

こんな感じで私達太田島集落は出来ることをやりながら前向に進んでいきたいと思つています。最後に水沢地区の更なる発展を祈っています。

中在家

中在家惣代 橋口 倉蔵

陽春の候、皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、本年度中在家集落の惣代を承りました。中在家集落もここ最近、野焼きによる火事と行方不明者の捜索と続き皆様に大変なご心配をおかけし、また協力を頂きました事有難く、御礼申上げます。中在家集落戸数も20軒を割り高齢者世帯が多くなります。健康で老年を迎えていきたいそんな思いとともに集落作りを願い、行政からの協力の願いを込めながら集落維持を願うこの頃です。

集落の皆様の温かい理解と協力によつて成り立つています。私も高齢となり至らぬ点も多々あると思いますが皆様のお力添えを頂きながら務めさせて頂きたいと思ひますので、宜しくお願ひ致します。簡単ではございますが、就任の挨拶とさせていただきま



地域取材

『旭日双光章を受章して』

飯塚 茂夫



この度、令和五年秋の叙勲に浴し、旭日双光章の栄を賜りました。去る十一月九日、皇居に参内し春秋の間に天皇陛下に拝謁しお言葉を賜ることができました。これもひとえに、十五年五ヶ月の長きにわたり、私を支えてくださった皆様方のご支援のおかげと、心より感謝申し上げます。四月二十日には発起人の方々の計らいにより、叙勲受章祝賀会を二葉家にて開催していただき、来賓の国会議員の方々をはじめ、多くの関係者の方々のご臨席を賜り、盛大な祝賀会となりましたこと、深く感激いたしております。



今回の受章を糧に、水沢地域はもとより、十日町市の更なる発展に微力ながら努めて参りたいと考えております。

『令和5年度十日町市褒賞受賞』

宮澤 秀行

十日町地区交通安全協会で21年間地域の交通事故防止活動に貢献されたということで、土市の宮澤建設社長、宮澤秀行さんが十日町市褒賞を受賞されました。

宮澤さんにこれまでの活動等、お話を伺いました。

「最初は水沢地区の交通安全協会(以後 安協)を手伝ってくれという話から入会しました。水沢支部の支部長を数年間して十日町安協の理事を数年間、去年からは十日町安協の副会長をしています。

十日町市は新潟県内でも交通安全活動が盛んな地域です。その中でも水沢支部は歴史が古く、先輩役員の方々が非常に一生懸命活動されていて、十日町管内の他の支部に比べてダントツに交通安全意識の高い地域です。



縁あって、平成十三年十一月に市長選挙と同時に行われた市議会議員の補欠選挙で当選させていただいて以来、水沢地区振興会の一員としても、地域づくりに参画させていただききました。水沢地域は、他に先駆けて国道改良事業をはじめ、当間リゾート誘致活動、大沢トンネル、当間トンネル、広域農道整備事業とインフラの充実に取り組んで参りました。

今後は、更なる地域振興の鍵として、上沼道の整備が大きな課題です。関越道と北陸道を結ぶ大プロジェクトの一日も早い完成を夢見ております。

特に、土市・丸壽の上村修二さんと太田島の金澤忠司さん、このお二人が水沢地区の交通安全活動の歴史を作ったと言つても間違いないです。お二人は全国交通安全協会と関東管区警察署長所連盟からも表彰されていて、上村さんは全国的に見ても名譽が高い緑十字金賞を受賞しています。水沢はそのような先輩方が歴々と活動を繋いできた地域です。私達はただその後を受け継ぎ評価され、今回の受賞に繋がったと思っています。

現在、水沢支部の会長は馬場・昭和建設社長の富井さんが引き継いでくれています。今後も水沢地域の人々を中心に、交通安全活動のバトンを繋いでいきたいと思います。

平成25年より10年間にわたり十日町市議会議員として市政の進展に尽力されているということで十日町市褒賞を受賞されました。

福崎哲也さんに受賞されたことにおいてのお気持ち、更なる十日町市への思いを聞かせていただきました。

福崎 哲也

市からの褒賞授与のご報告と、日頃より地域の皆様からご支援頂き、心より感謝申し上げます。

微力ではありますが、地域の皆さんのお役に立つことが出来た



こと、私自身の考え方や思いにご理解いただきながら、議員という立場で多くのことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。経験から、全てにおいて共通することですが、地域をよくするには、地域、市民の皆さん一人ひとりから本気でお考えいただき、皆さんの熱い思いをまとめ形に変え、これからの中の将来、未来の子ども達のためにという思いで役職に取り組んでいます。今後も十日町市を住みよい市に発展させるためにには、歴史と伝統の上に独自な教育、人に対する思いやりの心や愛情のほか、感情や倫理磨きの場が必要と感じます。文化、芸術やスポーツの花を咲かせることが、さらに強く望まれるところです。歴史と伝統を継承しつつも、独創性に富む若手人材を輩出し、彼らが活躍できる場を十日町市で築く必要があると考えます。若者が夢を追求できる環境を整えるため、引き続き、更なる精進を重ねる決意であります。終わりに、褒章受賞に際して御尽力をいただきました皆さんに、心から厚く御礼申し上げます。

『全国大会出場を終えて』

馬場 小学校
リコードー部
部長 6年 小杉 紗来

(現 水沢中1年生)

全国大会に向けての練習では、メンバー全員でリズムや音を乱さないでやることを注意して行つきました。しかし、パート内でテンポを合わせられない、ピッチもなかなか合わないなどの大変さがありました。それでも全国大会の当日に向けて春休み中も一生懸命練習してきました。

東京都江戸川区の全国大会の会場に行くと、全国からたくさん の代表校

のメンバーが来ていました。そんな全国の代表校のメンバーが見ている中で実際に演奏してみて、大変緊張しました。しかし、全員でテンポを合わせ、パートごとにカバーしながら演奏をすることができました。

県大会では銀賞でしたが、県の推薦を受け、今回、全国大会に出場することができます。そして全国大会でも銀賞をとることができました。同じ銀賞でも、県の時の演奏よりもレベルアップし、悔いのない演奏ができたと思います。

これまで指導してくださった先生方、支えてくれたお家の人々に、感謝したいと思いま



『二十歳のつどい』



快晴に恵まれた5月3日、越後妻有文化ホール「段十ろう」にて「十日町市二十歳のつどい」が行われ、その後、水沢中学校平成30年度卒業生による同窓会が土市・二葉家にて行われた。

当日は東京・仙台・大阪など県内外より生徒40名、水沢中学校卒業時の先生方3名、サプライズで水沢小学校卒業時の先生が集まり、お互いの近況を話したり、思い出話などで盛り上がった。幹事の村山聰太さんは、「水沢の同級生は濃いメンバーバイබかり集まつていて、こうやつて顔を合わせることはとても楽しい。来年以降も同窓会を行つて行きたい。」と話していた。

今後の事を聞くと、大学生は学生生活が続くが、専門学生は学校を卒業し今年は新社会人1年生。20名程は十日町で就職・または今後就職を予定していると、とても明るい話題も聞かせてもらつた。

編集後記

ねつとわーく水沢を手に取つていただき、誠にありがとうございました。この広報誌は、地域のみなさまとのつながりを大切にし、地域の魅力や情報をお届けするために制作されました。

様々なトピックスを取り上げ、地域の方々へ地域の情報を提供することを目指しています。地域のイベントや行事の紹介、地域の歴史や文化、そして地域の人々の活動など、さまざまなコンテンツを通じて、地域の絆を深める一助となれば幸いです。また、地域のみなさまが主役となる場であり続けるため、今後も積極的なご参加とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、今号もねつとわーく水沢をご愛読いただき、心より感謝申し上げます。地域のみなさまと共に、より良い未来へ向かって歩んでいけることを願っています。

ねつとわーく水沢編集部一同 (I・E)